

平成30年度第1回座間市地下水採取審査委員会会議録

- 1 日時 平成31年2月7日(木) 午後3時5分～3時45分
- 2 場所 座間市役所 5F 5-3会議室
- 3 出席者 委員 守田委員長、村田副委員長、宮下委員、青木委員
事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主査、主事
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議題
- ・地下水汚染監視調査の地点変更について
 - ・重点的涵養推進区域について
 - ・その他
- 7 配布資料
- ・次第
 - ・地下水汚染監視調査の地点変更について(資料1)
 - ・重点的涵養推進区域について(資料2)

8 議事

(1) 地下水汚染監視調査の地点変更について

① 事務局説明

上流域からの有機塩素系化合物等の流入を監視するため、市境の4地点において、地下水汚染監視調査を実施していますが、昨年11月に2地点の井戸が廃止されました。

これを受け、2地点の代替地点を候補としましたので、御意見をお願いします。

② 質疑応答

・宮下委員

候補地点で水質調査を行ったことはありますか。

・事務局

1地点については、調査を行った経過があり、その際には基準値の超過はありませんでした。

・守田委員長

調査を継続する既存の2地点の地下水の水質状況はいかがですか。

・事務局

近年では、環境基準の超過はありません。

・守田委員長

調査地点における取水深度はどのくらいですか。

・事務局

概ねGL-20～40m程度のところで取水をしています。今回廃止となった2地点については、他の地点と同程度の深さであろうと考えています。

・守田委員長

本調査以外にも、水質調査を行っていると思いますが、どのような井戸を対象としているのか、また、過去に汚染があったのか教えてください。

・事務局

市内を東部、中部、西部に分けて、有機塩素系化合物等の調査を行っています。過去に場所によっては、テトラクロロエチレンがわずかに環境基準を超過する状況も観測されたことがあります。極端に高い値は出ていません。

・守田委員長

超過地点には湧水も含まれますか。

・事務局

湧水も含まれます。

・青木委員

上下水道局でも水質検査を行っており、過去には有機塩素系化合物が検出されたこともありましたが、現在は確認されていません。

・守田委員長

地下水汚染監視調査の地点変更について、特に問題ないと考えますが、いかがですか。

・全委員

異議なし。

(2) 重点的涵養推進区域について

① 事務局説明

湧水量の確保を目的として、重点的涵養推進区域を設定し、雨水浸透ますの設置助成を他の区域より高い額に設定するなどの施策を講じています。

また、本区域については、平成28年度に改定した座間市地下水基本計画に基づき、湧水量の保全を図るため、区域を拡張した経過があります。

地下水保全基本計画については、計画期間が平成28年度から10年間となっており、改定から5年経過した平成33年度には、検証を行うことになっています。重点的涵養推進区域施策をより良いものにするために、御意見等をお願いします。

② 質疑応答

・青木委員

重点的涵養推進区域の拡大については、湧水量の確保に向けた前向きな施策と認識しましたが、有識者の皆様からしても、妥当な施策だったという認識でよろしいでしょうか。

・守田委員長

座間市が地下水に恵まれていることを表す一つのバロメーターは湧水です。そのため、湧水をいかに維持していくかということが、水循環の健全化に向けた重要な施策になります。

す。

地下水には、雨水が地面に染み込む涵養域、地下を流れる流動域、地表に湧き出る流出域があり、涵養・流動・流出が正常に機能していることが大切です。湧水とは地下水の流出に当たります。そのため、この流出を維持していくためには、湧水が存在する崖や谷という地形が持つ地下水の流れに沿う形で、効率的な雨水涵養を行うことが重要といえます。

このような観点を勘案すると、西部の崖線タイプの湧水の涵養域と東部の目久尻川周辺の谷頭タイプの湧水の涵養域を改めて設定したことは、妥当な設定となっていると考えます。

・宮下委員

重点的涵養推進区域内で雨水浸透施設が、どのくらい設置されているのかは、把握していますか。

・事務局

雨水浸透ますの設置助成の申請があったものについては、把握しています。

・宮下委員

宅地化されて涵養量が低下しているところに、雨水浸透施設が設置されれば、より効果が上がると考えます。雨水浸透施設の設置状況について、引き続きの把握をお願いします。

・守田委員長

雨水浸透ますに関しては、市内全ての家屋の設置状況が把握しにくいという課題があります。また維持管理をどう推進していくかという課題もあります。不浸透域が多いエリアや、涵養が低下しているエリアをケアしていくことが必要と考えます。

・事務局

雨水浸透ますの維持管理については、パンフレットを市のホームページで公開したり、イベントで配布をするなどのPRを行っています。今後は、実際の清掃の様子を動画にして、市のホームページで公開することも検討しています。

・守田委員長

東京都の小金井市における雨水浸透施設の設置率は、約57%と非常に高いうえ、市内全ての家屋の設置状況を把握しています。今後はそういう把握も必要かも知れないです。

また、余談ですが、小金井市の国分寺崖線という湧水が回復していません。これは、深度の深い地下水を汲み上げることで、その深度の地下水位が下がり、涵養された雨水が、湧水にならずに深度の深い地下水へと吸い込まれるという状況によるものです。座間市において、深度の深い地下水が汲み上げられたりされているのかを教えてください。

・事務局

座間市については、極端に深いところから汲み上げているということはないと捉えています。

(3) その他

① 事務局報告

・前回開催の際に、要望がありました直近の地下水採取量については、報告の取りまとめができ次第、各委員に報告します。

・リニア建設工事に関する近況について、平成30年10月5日にJR東海から、説明がありましたが、内容としては、昨年の委員会の際に報告した内容と特に変更はありませんでした。なお、工事の詳細については、JR東海のホームページを確認してください。